



発行 令和元年 6月28日(金)  
発行人 郡山市小学校長会長 吉川和夫  
編集 郡山市小学校校長会 広報部

エピローグ ～「仕事の基本に立ち返って」～  
郡山市小学校長会長 芳山小学校 吉川 和夫

教職を仕事とし、昭和、平成、令和の3つの時代を経て、37回目の6月を迎えています。37回目が教職最終年となるので、4月からじっくりと、と思っておりましたが、現実は今までと何ら変わりなく猛スピードで毎日が過ぎていきます。先輩校長先生方がお話しされていたことが、今さらながらその通りだなと感じる今日この頃です。

さて、今年度の私の役割(仕事)の一つに、新学習指導要領のもと、英語科、プログラミング教育を組み入れた、社会に開かれた教育課程を教職員とともに編成し、次にたすきをつなぐことがあります。

学習指導要領の改訂、実施は、私の教職生活の中では4度目になります。平成4年度の学習指導要領では生活科の新設、平成14年度実施では、総合的な学習の時間の新設、平成23年度実施では、小学校外国語活動が導入されました。その度に、不易の部分を確認しつつ、新たなものに右往左往しながら取り組んだことが思い出されます。

学習指導要領の改訂は、10年かけて検討され、時代の要請をふまえながら実施されてきたものであります。それを受け、私たちが大事にすべきことの一つは、自校の特色を生かした教育課程を編成することだと考えています。そして、自校の特色を生かすには、実態把握と創意工夫が必要となります。

しかし、仕事としてやりがいのあるはずの教育課程編成なのに、当時の私をふり返ると、生活科の時も、総合的な学習の時間の時も、常に、何か手本になるものがないかとか、だれか、先進的にまとめたものがないかを優先

して考えていたようで、自信を持って仕事をしましたとは言いがたい気がします。

「PRESIDENT Online」におもしろい記事を見つけました。それは、「仕事の基本」を示したものです。その中で、成果が出ない会社の特徴として4つのことが書かれていました。働く現場では、「仕事」と「作業」は違う。「仕事」には、創意や工夫が求められる。対して、「作業」は、マニュアル通りの答えが求められる。この2つを混同し、「仕事」においてもマニュアル通りの答えがあると勘違いしているのではないかと書いています。

特徴その1。手順を教わることで、仕事ができたと勘違いしている。

その2。決まった手順でしか仕事をしていないと、創造的な思考が苦手になり、他の人にアイデアを求めたくなる。

その3。しっかりとしたビジョンや自分なりの答えをもたずに仕事を進めると、自身で判断できなくなり、すべて多数決で物事を進めるようになる。

その4。過去に経験した方法にこだわると、その方法や手順に慣れてしまい、新しい分野へは飛びこめなくなる。

記事は、「仕事」とは、創意工夫し、絶えず新たな方法を考えながら結果を出すことだといっています。

さて、最終章、校長としての「仕事」を全うできるのか。「あと、9カ月しかない。いや、あと9カ月もある。」その気持ちをもって仕事にあたっていきたいと思っております。